

はばたくなら ①③

わくわくがいっぱい！
～ “次はもっとこうしたい”
と思える保育を目指して～

取組について

■本園では、前年度から「わくわくがいっぱい！ともに育ちあおっ！！」をテーマに取り組んでいる。檀原市の中心地にありながら、どんぐりやいちょう、桜、くり、びわなどの木々、四季折々の花々や生き物と遊ぶ事のできる自然豊かな園である。この自然環境を生かしながら、子どもも保育者も共にわくわくしながら生活や遊びを進める中で、考えたり、試したり、時には悩んだりしながら成長していきたいと考える。

本クラスは3年保育の幼児がほとんどであり、園生活には慣れ、主体的に活動を進める子どももいるが、なかなか好きな遊びを見つけられずになんとなく時間をやり過ぎしたり、友達と同じ事をして安心している子どももいる。

■子どもたちが毎日の生活の中で、「もっと〇〇したい！」「次は〇〇やってみよう！」「〇〇するとどうなるんだろう？」とわくわくしながら心動かすようになるには、保育者の援助や環境構成をどのようにすればよいのか日々模索しながら、職員間で共有、連携する時間「わくわくタイム」を確保し、週1回取り組んでいる。

また、子どもたちの姿を園内にとどめるのではなく、保護者に発信したり、就学に向けて小学校との連携につなげたりしていくことを大切にしていきたい。

この取組を通して・・・

○保育者が子どもたちのわくわくを見逃さず、クラスの友達と思いを共有し合うことでより遊びが深まっていった。何度も繰り返し遊んできたからこそ友達と思いを出し合い、協力しあう姿につながっていった。また、保育者が子どもたちの思いをしっかりと受け止め、思いを実現するための環境構成や試行錯誤を続けていく大切さを感じた。

○職員間での話し合い「わくわくタイム」では、子どもたちの姿や遊びの様子を職員間で共有する事で、様々な経験や角度からの助言を受ける事ができた。そして、環境構成や援助、子どもたちの遊びがより深まり、わくわくへとさらにつながっていった。

○毎日のおはようタイムや好きな遊びの時間などで異年齢の関わりを大切に、担任間で連携しながら保育を進めてきた。その中で、年下の友達を思いやったり、一緒に遊ぶ楽しさを感じたりするようになってきている。そのような思いの積み重ねが、子どもたちの主体的、協同的な活動につながっていった。様々な人との関わりを通して、自分の思いを伝えたり、受け止めてもらったり、してあげたいと感じたりといろいろな思いを経験できる環境をこれからも模索していきたい。

実践事例①「生クリームみたいな泡にしたい！」 6・7月頃

ねらい ・夏ならではの遊びを友達と一緒に楽しむ中で目的に向かって考えたり試したり、工夫したりすることを楽しむ。

遊びの姿

◎泡遊びを楽しむ子どもたち。昨年の経験から固形石けんを削ったり、混ぜたりして泡作りを楽しんでいる。

どろんこケーキにのせてみよう！

ふわっふわの泡できたー！

とろーりヨーグルトみたい！！

明日も続きしたいな！！



ある日の遊びの後の振り返りの中で・・・

- ・できた泡を以前雨上がりに作ったどろんこケーキにのせてみたら、すぐに消えちゃった・・・ケーキにのせる生クリームみたいな泡にしたい！
- ・この前作って置いたら、泡が次の日にめっちゃ減ってた。
- ・どうして次の日には泡が少なくなるの??
- ・消えない生クリームみたいな泡にするにはどうしたらいいの??
- ・混ぜるときの水の量が多すぎるのも・・・?
- ・水の量を少しずつにしてやってみようかな。
- ・ゆっくりじゃなくて早く混ぜるのはどう??

担任の思い

子どもたち、毎日遊んで、試して、どんどん生クリームみたいな泡に近づいてる！わくわくしている気持ちがクラスのみんなにも広がってるな！子どもたちの思い、実現させてあげたい！！わくわくタイムで話してみよう！

試行錯誤

子どもの姿の共有、環境の再構成

遊びの姿

子ども同士の遊びの共有、気付き、驚き、提案、明日への意欲など・・・

わくわくタイム

遊びの振り返り

わくわくタイムの中で・・・

- 水の量を少しずつ調節する事に気付いてるんだね！数字にも興味をもてるように、軽量スプーンを準備しておくのはどう??
- 生クリームになったら、台所用スポンジや絞り袋を準備しておいたら、見立てて遊べてわくわくするね！！
- 保護者にも子どもたちの遊びの中での育ちを10の姿に照らし合わせてわかりやすく伝えていこう！

わくわくタイムの後、環境を再構成！！（軽量スプーン、絞り袋、お盆、コースター、テーブルクロスなどを準備する。）
何日も、水の量や混ぜ方、役割などを工夫しながら繰り返す日々・・・

ほんとのケーキになりそう！！

絞り袋で生クリームをのせてと！！

生クリームケーキできたー！

なんか、あまいにおいしい！！



食べたくなる～！

【遊びの中から読み取る10の姿】

- ・遊び、話し合いを繰り返し、何度もやってみようとする気持ち。
→自立心、言葉による伝え合いなど
- ・どうしたら消えない生クリームみたいな泡になるかと考えたり、考えたことを友達に伝えたりする。
→思考力の芽生え、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現など
- ・水の量を調整したり、計量スプーンを使ったり、混ぜると削る役割を分担するなどして、目的に向かって遊ぶ。
→思考力の芽生え、量・図形、文字等への関心・感覚、協同性、自立心など

【考察】

「生クリームみたいな泡にしたい」という子どもの思いを大切にしながら保育を進めていった。その実現に向けて試行錯誤していく中で、うまくいかない葛藤、友達と役割分担する楽しさ、思いが実現しそうな喜びを感じる経験につながった。子どもがワクワクしながら遊びを進めていく中での育ちを大切にチーム保育の大切さを感じた。

実践事例②「今度はぼくたちがしてあげたい！」10・11月頃

ねらい・共通の目的に向かって、友達と思いや考えを伝え合いながら活動することを楽しむ。

遊びや生活の中で、考え、相談し、やってみようということを大切にしてきた。運動会では和太鼓に取り組み、子どもたちの思いを丁寧に繋げてきたことで、自分たちで作り上げる達成感を味わった子どもたち。運動会が終わり、異年齢の友達に和太鼓を教えたり、一緒にリレーをしたりして遊ぶ事を楽しんでいた。ある日の昼食の時間・・・「なあ、先生、前のきりん組さんがしてくれたおいもパーティー、今度はぼくたちがしてあげたい！」という一人の子の思いから、クラスみんなでのおいもパーティー大作戦が始まった。

「どんなおいもパーティーにしたい？」

- ・小さいくみさんにやさしいパーティー
- ・小さいくみさんがうれしい気持ちになる
- ・みんなが笑顔になる
- ・喜んでほしい
- ・もっと食べたくなるパーティー
- ・少しだけびっくりするようなパーティー

話し合う中で、「お化け屋敷を通ったら、その先に楽しいおいもパーティーがあるようにしたい！！」と子どもたちの思いが一つになっていった。子どもたちと一緒に廃材やいろいろな素材を用意し、イメージしながらお化け作りを楽しんだ。

◎年長児として、「異年齢の友達のため」という気持ちがたくさん溢れる話し合いになった。



その後も、朝の集まりの時には子どもたちからおいもパーティーの話が自然とあがった。その中で、「そろそろ、チケットつくろうよ！」「看板もつくらないと！先生、段ボールある??」と子どもたちがどんどんおいもパーティーに向けて大作戦を進めていった。

小さいくみさん字
読めるかなあ？

おいもの絵も
描こう！



かわいくした
方がいいよ
ね！

こっちだよーの
矢印描いてる
よ！

前日には、小さいくみさんにチケット渡したり、看板や飾り付け、お化け屋敷の準備、おいもを洗うなど大忙し！！「めっちゃ忙しいやん！」という子どもたちは頼もしい表情だった。そして、当日、手を引いて優しく声を掛けたり、顔をのぞき込んだりと自信たっぷりの表情の子どもたちだった

こわそう～

手つなごう！

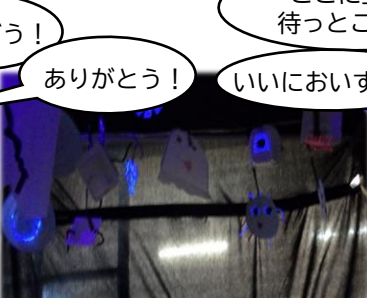
ありがとう！

ここに並んで
待とうごね！

いいにおいする！

何味ですか～？きなこ味も
おいしいですよ～！

大丈夫やで！



【遊びの中から読み取る10の姿】

- ・昨年、自分たちが年長児においもパーティーに招待してもらった経験から、年下の友達を喜ばせたいという気持ちで友達と一緒に考えたり、力を合わせたりして準備を進める。
→社会生活との関わり、協同性、思考力の芽生え、言葉による伝え合い、豊かな感性など
- ・年下の友達のためにチケットや看板などを作る。→量・図形、文字等への関心・感覚など

【考察】自分たちがしてもらったことを今度はしてあげたいという気持ちを大切に、おいもパーティーの実現に向けて何度も話し合いながら、活動を進めていった事で、主体的な姿、協同的な姿がたくさん見られるようになった。自分たちの思いが受け止められ、自分たちの力を発揮する喜びができるような経験をこれからもたくさん積み重ねていきたい。